

「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2017 年度 結果

「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2017 年 12 月 7 日（木）～2018 年 1 月 19 日（金）
 調査方法：Excel で回答可能な「お茶大インデックス」をメールにて送付し、Plone を用いて評価結果と活用方法についてのアンケート調査を実施。
 配布機関：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業（H18～H22）採択 55 機関、及び女性研究者研究活動支援事業選定（H23～H29）45 機関の計 100 機関
 回収数：38 機関（回収率 38%）

お茶大インデックス評価結果 38 機関の回答割合と全体的経年変化

38 機関のお茶大インデックス評価結果について、50 項目それぞれに 3 つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図 1 を作成した。

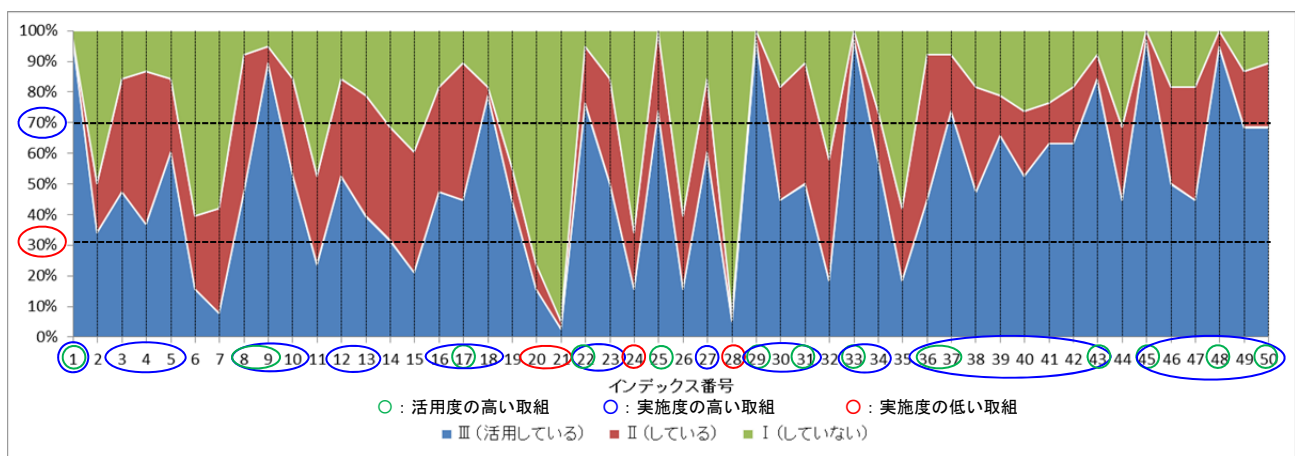


図 1. お茶大インデックス評価結果（全 38 機関、回答割合）

38 機関における活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答が多い項目）、実施度の高い取組（Ⅲ.活用している、Ⅱ.している）、低い取組（Ⅰ.していない）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答割合が 70%以上）

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (33) ホームページによる情報発信 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携 |
| (18) 保育施設の設置 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |
| (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 | |

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が 70%以上） ※赤字は昨年度（2016 年度）には認められなかった項目を示す。

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (16) 女性休養室の設置 |
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うためのシステムの導入 | (17) 授乳室・多目的トイレの設置 |
| (4) 客観的に業績を評価するシステムの導入 | (18) 保育施設の設置 |
| (5) 女性を積極的に採用するシステムの導入 | (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 |
| (8) 女性研究者における研究分野別・職階別の女性比率の把握 | (23) 育児期における職務軽減制度の導入 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 |
| (10) 業務を効率化するための取組 | (27) 子育てと研究のための相談窓口の設置 |
| (12) 定時帰宅日の設定 | (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 |
| (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知 | (30) 女性研究者を支援するためのメンター制度の導入 |

- | | |
|-------------------------------------|--|
| (31) 子育て中の女性研究者のキャリアアップ支援 | (42) 女子中高校生向けイベント・シンポジウムの開催 |
| (33) ホームページによる情報発信 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信（メール・新聞・掲示） |
| (34) 子育て支援のための冊子作成 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (36) 女性研究者を支援するためのロールモデル情報の発信 | (46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発 |
| (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携 | (47) 管理職向け両立支援に関する意識啓発 |
| (38) 女性研究者間のネットワーク構築 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |
| (39) 女子中高校生向け体験授業（学内・学外）の開催 | (49) ダイバーシティを理解するための意識啓発 |
| (40) 女子中高校生向けロールモデル情報の発信 | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |
| (41) 女子中高校生向けロールモデルとの交流会の開催 | |

実施度の低い取組（『Ⅰ.していない』の回答割合が70%以上）

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| (20) 学童保育施設の設置（他機関との連携も可） | (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制の導入 |
| (21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備 | |

「Ⅲ.活用している」（『Ⅲ.活用している』の回答割合が70%以上）の回答が多くみられたのは、2016年度と同様にインデックス番号（1）、（9）、（18）、（22）、（29）、（33）、（43）、（45）、（48）の9項目と、（25）『次世代育成支援対策行動計画』の周知と（37）女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携の2項目であった。これまでの結果において、「支援組織の設置」、「子育て支援のための予算配分」、「研究補助者の配置」、「他キャンパス・他機関・地域との連携」、「ホームページなどを用いた情報発信」、「男女共同参画やハラスメントにかかわる意識啓発」は実施度が高く、かつ、活用されやすいことは分かっているが、さらに行動計画の機関内周知の活発化、他機関との連携事業の増加も明らかとなった。連携事業において「Ⅲ.活用している」の回答が増加した要因として、文科省科学技術人材育成費補助事業における連携型や牽引型、ネットワーク構築型など、他機関と連携を図りつつ取組む事業が増加し、その事業に採択され推進している機関が回答していることが影響したと考えられる。

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が70%以上）は、昨年度（2016）も挙げられた35項目のうち「（14）実労働時間に関する調査」は減少し、赤字で示す「（41）女子中高校生向けロールモデルとの交流会の開催」が増加した。多くの機関において、50項目中35項目（70%）が実施度の高い取組となっていることから、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関においては雇用環境の整備が定着し、順調に活用されていることがうかがえる。

一方、実施度の低い取組は昨年度と変わらず「学童保育」、「宿泊施設の設置」、「奨学金制度の導入」であった。経済的支援や設置場所の確保、多額の資金が必要な取組は未だ実施困難であることがわかる。

上記の結果から、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関では雇用環境の整備が概ね定着し、①支援組織や保育施設を設置し、②研究補助者を配置するとともに、③ホームページを用いて積極的に機関内外に発信し、④ハラスメント防止や男女共同参画意識を高める取組が継続的に実施されていることが確認できた。一方で、経済的支援、設置場所の確保や多くの資金が必要な取組についてはやはり実施が困難であるため、他の方法を提案する必要があると言える。

お茶大インデックス 評価の経年変化

昨年度（2016年度）、お茶大インデックス評価の経年変化について継続的に回答いただいた機関についてのみ報告してきた。今年度で8回目（8年目）の調査となり、前述のように年々雇用環境の整備状況は改善されている様子が見て取れることから、調査対象機関が少ない2010年度を省き、2011年度から2017年度の各年度における回答機関総合得点平均値の推移をみることにした。また、お茶大インデックスを「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の7項目に大分類し、これらの得点平均値における7年間の推移を確認することにした。2011年度から2017年度における総合得点と大分類した7項目における得点割合（100%は満点）の平均値を算出し、図2を作成した。

総合得点は2011年度52.7%（52.7点）から2017年度には62.4%（62.4点）となり、年々得点が伸びている（9.1%増）ことが分かる。また、「組織」に関わる取組の実施状況についても、2011年度の54.3%から2017年度には61.5%となり、毎年得点が上昇（7.2%増）する傾向がみられた。その他の項目では、年度によ

って増減はあるものの、2011 年度から「勤務体制」は 9.9%増、「子育て支援」は 8.0%増、「研究教育支援」は 9.3%増、「情報支援」は 9.0%増、「次世代育成の取組」14.3%増、「意識啓発の取組」においては 12.7%の大幅増となった。「次世代育成の取組」と「意識啓発の取組」が大幅に増加していることから、制度よりも啓発活動に力を入れている機関が多いことがうかがえる。この 7 年間で雇用環境を改善する取組は女性研究者支援事業実施機関において着実に実施され、働きやすい環境が整備されたと言える。

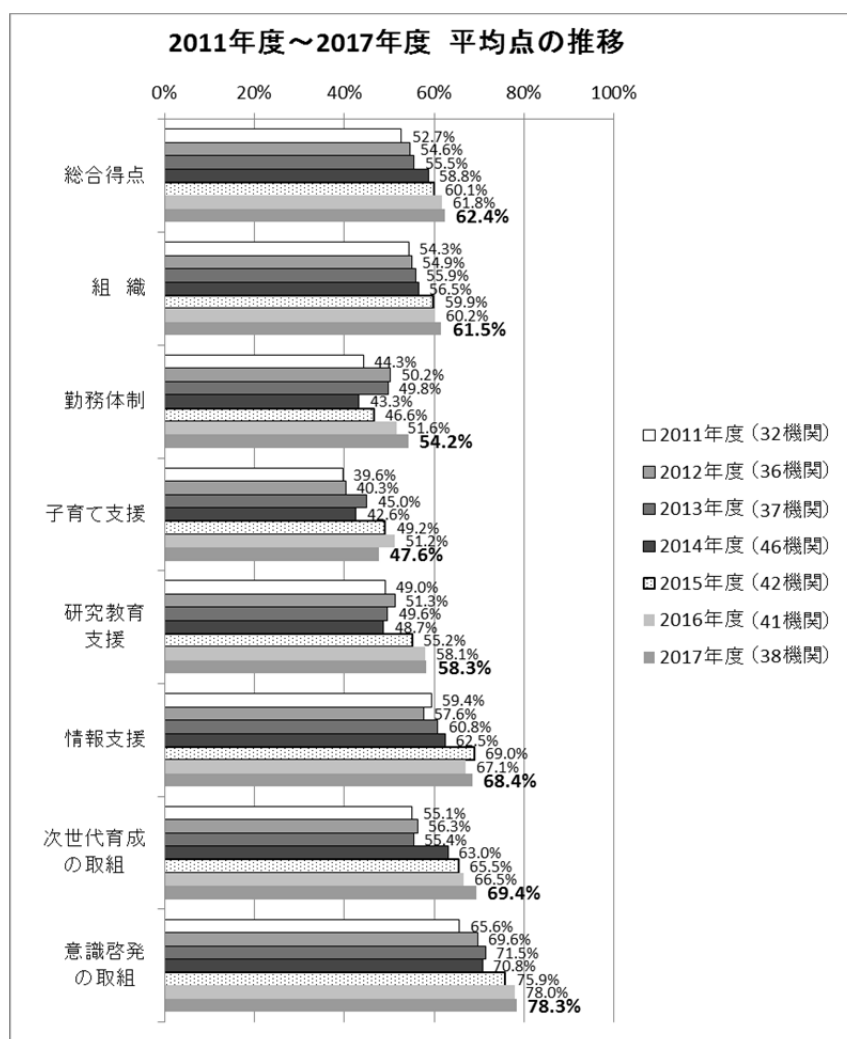


図 2. お茶大インデックス評価（得点割合）の経年変化（全 38 機関、回答割合）

お茶大インデックス評価結果 評価得点上位 10 機関・下位 10 機関の特徴

38 機関のうち、インデックスの評価得点上位 10 機関（平均 76.7 点/100 点中）の回答割合を用いて図 3 を作成し、評価得点下位 10 機関（平均 42.0 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成した。

評価得点上位 10 機関（図 3）の結果を見ると、インデックス番号（6）女性を管理職に登用するシステムの導入、（20）学童保育施設の設置、（21）子育てを支援するための学内宿泊施設の整備、（28）学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入、の 4 項目は「I.していない」の回答が多い。

インデックス番号（20）、（21）、（28）は 2011 年度から「I.していない」の回答が多く、育児に対する奨学金制度や施設・設備の整備は支援活動が充実している機関においても実施困難であることがわかる。なお、インデックス番号（6）女性を管理職に登用するシステムの導入、については今年度初めて「I.していない」の回答が多くなった。公募システム（インデックス番号 3）や客観評価システム（インデックス番号 4）、女性採用システム（インデックス番号 5）の導入については実施率が高いものの、管理職の女性を輩出する仕組みの導入は雇用環境が整備されつつある現在においても未だに困難である状況が示された。

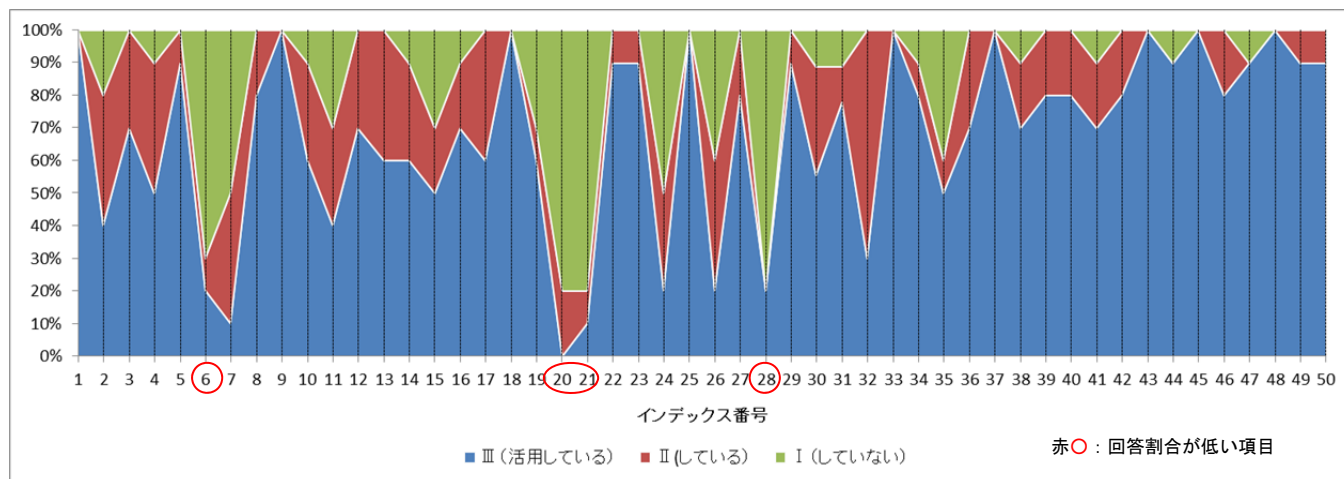


図 3. お茶大インデックス評価結果（得点上位 10 機関）

評価得点下位 10 機関（図 4）において、インデックス番号（1）、（3）、（4）、（8）、（9）、（16）、（17）、（18）、（22）、（23）、（25）、（27）、（29）、（30）、（31）、（33）、（36）、（37）、（43）、（45）、（48）、（49）に見られる「女性研究者支援」と「意識啓発」の多くの項目において、「Ⅲ.活用している」もしくは「Ⅱ.している」の回答割合が 70%以上を示した。中でもインデックス番号（29）子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置、（33）ホームページによる情報発信、（45）ハラスメントを防止するための取組、（48）男女共同参画に対する意識啓発については、「Ⅰ.していない」の回答が 0 件であることから、支援活動を十分に実施できない状況においても、これらの取組は導入・実施がしやすいと考えられる。

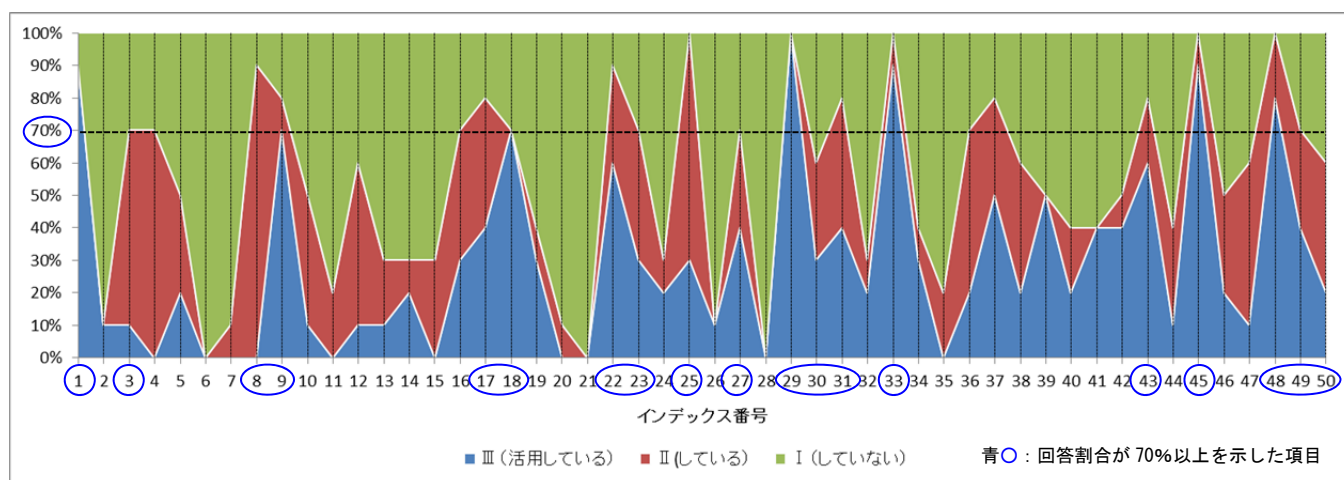


図 4. お茶大インデックス評価結果（得点下位 10 機関）

お茶大インデックス評価結果 38 機関における支援バランスの特徴

お茶大インデックスの「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の 7 項目の活用バランス、すなわち支援のバランスがどのようなものであるかを明らかにするために、大分類された 7 項目それぞれに得点割合（100%は満点）の平均値を算出した。結果を図 5 に示す。

7 項目のうち「意識啓発の取組」の得点割合が昨年と同様に最も高く、「次世代育成の取組」、「情報支援」と続いている。「次世代育成の取組」はここ数年大きなバラツキが認められ、実施できている機関とできていない機関に差がみられた。そこで、2017 年度も 38 機関それぞれに算出した 7 項目の支援バランス（得点割合）を用いてクラスター分析（類似性の高いものをグルーピングする方法）による解析を行った。

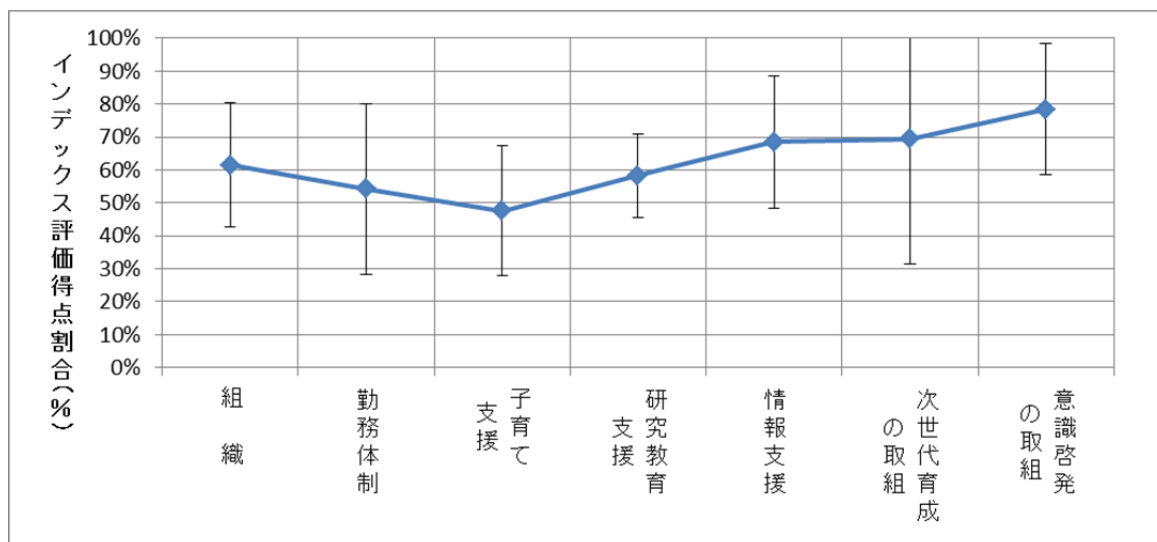


図5. お茶大インデックス 支援バランス（38機関における評価得点割合の平均値）

その結果、図6に示す通り、支援バランスの特徴により38機関を4グループに分類することができた。

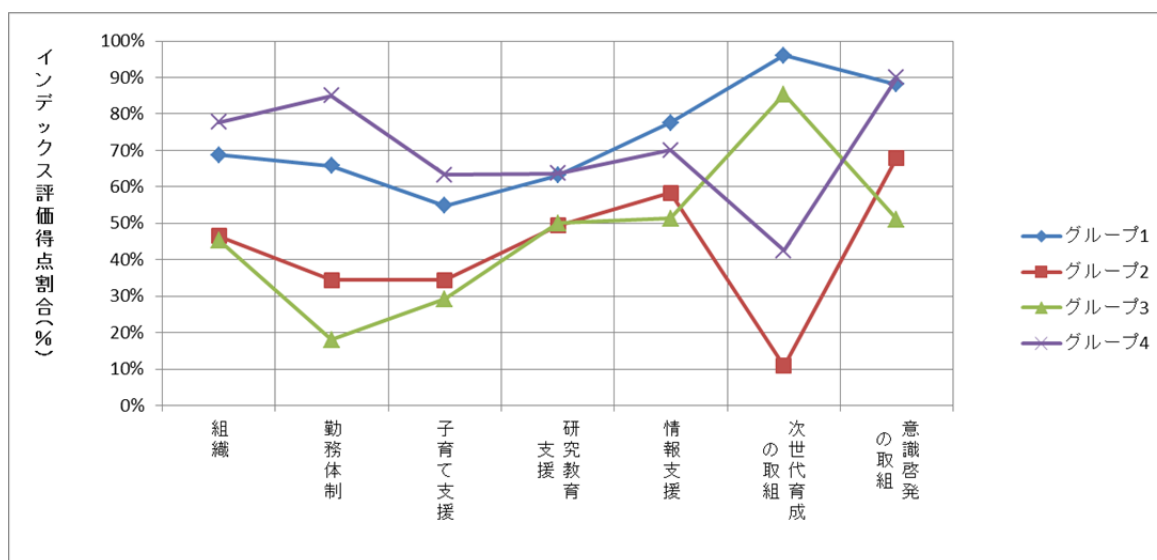


図6 お茶大インデックス評価 38機関における支援バランスの特徴

各グループを構成する機関の特徴は次に示す通りである。

【グループ1】 情報支援、次世代育成の取組が充実している機関（19機関）

4グループの中でも全体的に評価得点が高く、特に「情報支援」、「次世代育成の取組」が他機関よりも充実しているグループである。中でも「次世代育成の取組」実施率が90%以上と非常に高く、総合得点平均値も71.8点と非常に高い。上位10機関のうち7機関がこのグループに属しており、19機関中16機関が国公立の大学である。なお、お茶の水女子大学もこのグループに属している。

【グループ2】 「次世代育成」以外に力を入れている機関（8機関）

5グループの中でも「次世代育成」の得点が特に低いグループである。総合得点平均値は46.3点であった。国公立大学が3機関、独立行政法人が2機関、私立大学が3機関で構成されている。

【グループ3】 「勤務体制」、「子育て支援」の取組が弱く、「次世代育成」に力を入れている機関（6機関）

5グループの中でも「勤務体制」と「子育て支援」の得点が最も低いグループである。総合得点平均値は46点と最も低いが、一方で「次世代育成の取組」は80%以上が取り組んでいるという特徴を有する主として工学系大学や地方大学で構成されている。

【グループ4】 全学的な支援体制と女性研究者支援が充実している機関（5機関）

「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「意識啓発」の得点が特に高い特徴を有するグループである。一方で、「次世代育成の取組」については、総合得点平均値が最も低いグループ3よりも低いことが分かる。総合得点は4グループの中で最も高い72点であった。長期間支援活動を行っている地方の国公立大学3機関と比較的最近支援を始めた独立行政法人で構成されている。

お茶の水女子大学における お茶大インデックス評価結果

お茶の水女子大学は、女性研究者支援モデル育成事業（2006年度～2008年度）を経て、2009年度より本学独自の事業として雇用環境の整備と研究者支援を継続・発展させてきた。また、2014年度には、本学と芝浦工業大学、物質・材料研究機構の3機関が女性研究者研究活動支援事業（連携型）に共同申請し、採択されている。本学における2011年度の総合評価得点は62点、2012年度は68点、2013年度は70点、2014年度と2015年度は72点、2016年度は75点となり、2017年度は前年度と同様の75点であった。

38機関におけるお茶大インデックス評価結果 まとめ

女性研究者支援事業が開始されて10年以上が経過し、お茶大インデックスを用いた全国の教育研究機関の雇用環境評価も8回目となった。経年変化の分析では、初回調査時と比較して評価得点は年々増加傾向にあることが明らかになった。さらに、7項目の支援バランスをもとに、38機関を4グループに分類したが、継続して支援活動を行っている成果を見出し、各機関における支援の特徴を表すことができた。本調査は2017年度をもって一旦終了し、これまでの蓄積データと分析結果を報告書としてまとめ、発信する予定である。

【付録】 お茶大インデックス評価結果 総合得点一覧

お茶大インデックスの評価結果（表1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は62.4点（昨年度より0.6点増）、最高点は82点、最低点は22点であった。

表1. お茶大インデックス 評価結果 （総合得点降順）

ID	総合得点	「お茶大インデックス」得点						
		1.全学的な支援体制 組 織	2.女性研究者支援 勤務体制	3.情報支援 子育て支援	4.意識啓発 研究教育支援	5.情報支援 情報支援	6.次世代育成 の取組	7.意識啓発 の取組
最高点	100	18	12	12	22	12	8	16
055	82	16	8	8	14	12	8	16
017	80	16	12	6	16	10	4	16
070	80	13	8	9	17	9	8	16
006	79	11	10	7	18	10	8	15
035	76	12	10	7	17	9	5	16
お茶の水女子大学	75	14	9	7	14	11	8	12
045	75	12	5	7	15	12	8	16
030	74	9	10	8	17	8	8	14
016	73	13	7	5	16	10	6	16
019	73	15	7	6	13	10	7	15
025	73	11	8	8	12	11	8	15
076	73	15	9	7	12	10	7	13
057	71	13	9	6	11	10	8	14
066	71	15	6	4	11	12	8	15
077	71	11	9	7	15	7	8	14
002	70	11	8	6	14	8	8	15
067	70	13	10	9	12	7	5	14
033	69	11	7	9	13	9	8	12
043	68	15	10	10	13	6	0	14
068	67	12	7	7	14	10	6	11
080	66	14	9	6	12	10	3	12
036	63	11	8	4	13	8	8	11
061	63	10	7	6	10	6	8	16
071	63	12	8	4	15	4	8	12
051	60	15	3	3	12	9	8	10
069	57	13	4	3	13	11	1	12
003	56	11	7	1	15	8	2	12
011	53	10	5	3	11	7	4	13
039	52	6	6	7	14	6	0	13
058	48	7	2	6	13	6	7	7
063	47	4	4	4	8	7	6	14
022	46	7	2	8	12	6	0	11
078	43	9	6	2	8	7	0	11
037	41	7	3	4	10	7	0	10
064	41	4	0	6	10	5	8	8
014	40	7	0	2	12	8	5	6
079	40	12	4	0	11	2	7	4
007	22	4	0	5	4	4	0	5

謝辞：本調査を実施するにあたり、全国の多くの教育研究機関の皆様にご協力を賜りました。心より感謝の意を表します。